

子どもも大人も・・・

広島市民の福祉学習を、社会福祉協議会が応援します！

体験！発見！！ほっとけん！！！！

やさしさ発見プログラム事業

～福祉活動体験学習を中心とした福祉教育推進事業ガイドブック～



目 次

はじめに	1
やさしさ発見プログラム事業 実施要項	2
やさしさ発見プログラム事業 申請から報告までの手順	3
やさしさ発見プログラムの例	4
やさしさ発見プログラム事業実施例	6
福祉器材の貸出しを行っています	8
振り返りシート(4種類)	9
やさしさ発見プログラム事業申請書	10
やさしさ発見プログラム事業報告書	11
やさしさ発見プログラム事業申請書記入例	12
やさしさ発見プログラム事業報告書記入例	13

はじめに

広島市社会福祉協議会は、各区社会福祉協議会との協働事業として、「次代を担う子どもたちに福祉の心を！」をスローガンに“地域に根ざす福祉教育”を目指した福祉教育推進事業を、平成元年度から取り組んできました。これは小・中・高等学校と併せて地区社協や福祉施設を指定する総合指定方式で、広島方式として全国でも高い評価を受けていました。

こうした中、平成14年度から学習指導要領が改定され、「総合的な学習の時間」の中で福祉を取り上げた授業等が多く各学校で盛んに行われるようになりました。

そこで本会福祉教育推進協議会において、小・中学校を対象とする「福祉に関わる学習」の取り組みについての実態調査を平成15年度に実施したところ、学校から「学習協力者の交通費、謝金費用の捻出に困る。」「講師の紹介をしてほしい。」「各学年に応じたプログラムの開発が必要である。」といった課題が明らかになりました。こうした課題に対応し、もっと多くの学校で「福祉に関わる学習」の取り組みを広げていくため、平成18年度から3年間、新たな推進方策として「やさしさ発見プログラム事業」をモデル事業として試行し、平成21年度から本格実施するに至りました。

この「やさしさ発見プログラム事業」は、福祉の動向を背景に、子どもから大人までを対象とした、一人ひとりの「生きる力」や「福祉のこころ」を育む学習の機会を提供するもので、「体験！発見！！ほっとけん!!!」を合言葉に進めています。

さまざまな人が“福祉”を学び、体験・共感することから、いろいろな“気づき”が生まれ、“ほっとけん”気持ちをはぐくみ、行動する。そんな子どもや大人たちで広島のまちがいっぱいになれば、誰もが住みやすいまちになることでしょう。

「あなたとつくる みんなでつくる ささえあいのまち ひろしま」をみんなで創っていきませんか。

このガイドブックでは、「やさしさ発見プログラム事業」の概要とプログラム（学習内容）の例示、申請時に必要な様式などを掲載しています。

相談先

学校関係の方、地区団体の方→**区社会福祉協議会へ**

企業の方、その他の方→**広島市社会福祉協議会へ**

それぞれの連絡先は、裏表紙をご覧ください。



やさしさ発見プログラム事業 実施要項

① 目 的

「福祉」は、いのちの尊厳・基本的人権・平等・幸福追求権などを基本理念とした、全ての人々の生活に関わるものであり、今日の少子高齢化、家族機能の低下、社会制度の変化などにより、福祉ニーズはますます多様化してきている。そこで、さまざまな人が福祉を学び、体験・共感する機会を創ること、福祉やボランティアの情報やニーズを市民に広め、行動を喚起する取り組みが求められている。

この事業は、そうした取り組みのひとつとして、福祉活動体験プログラムを「体験！発見!!ほっとけん!!!」を合言葉に実践し、一人ひとりの「生きる力」や「福祉の心」を育む生涯学習として、市民に対する福祉教育を推進するために行うものである。

② 事業名称

この事業は、「やさしさ発見プログラム事業」と称する。

③ 実施主体

この事業の実施主体は、社会福祉法人広島市社会福祉協議会（広島市ボランティア情報センター）とする。

④ 事業対象および内容

- (1)事業対象は、学校、地域、企業、団体等とする。
- (2)事業対象とする学習内容は、「福祉教育ガイドブック」や「やさしさ発見プログラムの例」「振り返りシート」等を活用した福祉活動体験学習とし、福祉活動体験学習サポーター（講師・学習協力者）の協力を得て実施するものとする。
- (3)学習内容は、「体験！発見!!ほっとけん!!!」の学習過程①体験学習 ②振り返り学習（気づき） ③まとめ学習（ボランティアな気持ちの育成）を踏んでいるものとする。

⑤ 実施方法

- (1)学校（小・中学校）においては、「福祉に関わる学習」「人権教育」「PTCやPTA活動」等で取り組み、区社協ならびに地区社協との相談協議により実施する。
高等学校や大学等、広域を対象にした学校については、市社協または区社協との相談協議により実施する。
- (2)地域（地区社協）においては、広く地域住民や地区社協役員等を対象に「新・福祉のまちづくり総合推進事業」の「地区ボランティアバンク活動推進事業」と連携し、区社協との相談協議により実施する。
- (3)企業等においては、「社員（退職者等含む）研修」「社会・地域貢献活動」等で取り組み、市社協または区社協との相談協議により実施する。
- (4)団体等においては、会員等を対象とした福祉に関わる学習会として取り組み、市社協または区社協との相談協議により実施する。
- (5)それぞれの実施に係る申請及び報告については、別途様式により市社協会長宛提出する。

⑥ 実施に要する費用

この事業の実施に関して本会が助成する経費は、別に定める講師謝金、講師保険料、学習協力者交通費、車椅子運搬費等とする。

⑦ その他

この要項に定めるもののほか、事業の実施に必要な事項は、会長が別に定める。

附 則

この要項は、平成21年4月1日から施行する。

この要項は、平成24年4月1日から施行する。

この要項は、令和2年9月1日から施行する。

やさしさ発見プログラム事業 申請から報告までの手順

1 申請

事前相談

原則、実施希望日3ヶ月前

区（市）社協へご連絡ください。

- ・ 担当者が、プログラム作成についてアドバイスをします。また、講師の調整、学習協力者の調整、車いす運搬の調整をします。

申請書作成・提出

原則、実施1ヶ月前

- ・ 学習協力者が必要な場合は、「やさしさ発見プログラム事業学習協力者の出欠確認書」を送付します。（原則5人まで交通費を負担します）

2 ページの実施要項に従って実施してください。

2 実施

体験！の場作り



小・中学校・高等学校など
「すべての教育活動」で取り組む

企業など

「社員研修」「地域貢献活動」等で行う。

地域

「新・福祉のまちづくり総合推進事業」における「地区ボランティアバンク活動推進事業」の一環として取り組む。

課題（気づき）の発見!!



振り返り作業

- ・ ワークショップ
- ・ 体験の振り返り
- ・ 問題の共有化

ほっとけん!!!～気持ち～



ボランティアな活動

- ・ ボランティア活動
- ・ 地域貢献活動
- ・ 非営利活動（有償サービス）

誰もが安心して暮らすことができる 福祉のまちづくり

3 報告

報告書作成・提出

原則、実施後2週間以内

やさしさ発見プログラム事業学習協力者の出欠確認書記入・提出 ※対象団体のみ

◎「申請書」「報告書」は、10・11 ページをコピーしてお使いください。また、「広島市社会福祉協議会」のホームページにも、様式を掲載しています。

◎実施に際して必要な経費（講師謝金等）を本事業の申請に基づき、予算の範囲内で本会が負担しますが、実施内容によっては、申請者側に一部経費の負担をお願いする場合があります。

やさしさ発見プログラムの例

◎期待される効果

- ①参加した住民（子どもも大人も）の心に、“やさしさ”の種をまきます。
- ②地域で活動に参加してもらえるボランティアが増えます。（地区ボランティアバンクの拡充へ）
- ③お客様サービスが向上します

プログラム名	方 法	体 験
高齢者の理解 高齢化社会の中で高齢者の身体的な状況を理解し、適切な接し方や対応の仕方を学ぶ	・広く地域住民を対象とした『福祉にかかわる学習』（地区ボランティアバンク「住民福祉講座」として） ・地区社協役員研修会として ・地域のまつりで ・ PTA や子ども会の活動で ・公民館と連携して ・ 学校教育の中で ・職場での研修として	・高齢者と日頃よく関わりのある人などから、お話を聞く ・高齢者疑似体験セットを使用してさまざまな疑似体験を行う 【福祉体験学習サポーター例】 高齢者関係施設・機関の職員 高齢者疑似体験インストラクター
認知症の理解 認知症の人の理解と適切な接し方や対応の仕方を学ぶ	同上	・認知症についてのお話を聞く ・認知症のお年寄りの世界をバーチャル体験する 【福祉体験学習サポーター例】 認知症アドバイザー 高齢者関係施設、機関の職員 認知症の方の介護者
車いすユーザーへの理解	同上	・地域にお住まいの車いすユーザーや、ボランティア活動者のお話を聞く体験 ・車いすに乗ってみる体験 ・車いすに乗っている人の移動介助体験 【福祉体験学習サポーター例】 車いすユーザー 介助経験があるボランティア 福祉施設の職員
視覚障害者への理解	同上	・地域にお住まいの視覚障害者や、ボランティア活動者のお話を聞く体験 ・アイマスク体験 ・ 手引き歩行の体験 ・点字体験 ・ 盲導犬ユーザーと出会う 【福祉体験学習サポーター例】 視覚障害者の方（白杖歩行の方、手引き歩行の方、盲導犬ユーザー、点字を利用しておられる方・そうでない方） ボランティア 歩行訓練士
聴覚障害者への理解	同上	・地域にお住まいの聴覚障害者や、ボランティア活動者のお話を聞く体験 ・手話体験 ・ 要約筆記体験 【福祉体験学習サポーター例】 ろうあ者、難聴者 手話ボランティア、要約筆記ボランティア
知的障害者への理解	同上	・本人と交流する体験 ・ 親の思いを聞く体験 ・福祉体験学習サポーターの指導のもとで、疑似体験を行う。 【福祉体験学習サポーター例】 本人、保護者 教師や医師等
CAP（キャップ）子どもへの暴力防止 子どもへの暴力防止について体験的に学ぶ	・子どもの見守り活動をしている人たちの研修会として ・子ども会、PTA と共催で	ワークショップの実施 （ロールプレイと話し合い） 暴力とは何か、その暴力を解決するために何ができるかをワークショップ形式で考える



発 見

- ・頭の中で想像する高齢者、障害者の状況と実際に自分で体験したことのギャップ（差）の大きさを痛感した
- ・高齢者の生活のペースがわかった

- ・認知症についてのさまざまな理解が深まった
- ・声のかけ方、接し方がわかった

- ・歩道に自転車があったり、傾斜があったり、段差等さまざまなバリアがあることに気づいた
- ・「外出したい」気持ちに共感できた
- ・骨折したときなど、車いすを使うとき便利だろうと思った
- ・介助する人、される人、お互いに思いやりの気持ちが必要だとわかった
- ・体験のある、なしで全然違う！

- ・歩道の点字ブロックに自転車があり、白杖による歩行の妨げになっていることを発見した
- ・白杖や盲導犬を利用して歩行する人もいるが、手引き歩行が一番安全な方法であることを知った
- ・適切なリハビリ、日常生活訓練を受けるとよいことがわかった

- ・手話や要約筆記が大切なコミュニケーション手段であることを知った
- ・どんなときに困ったり不安になったりするのかわかった

- ・“障害”を理解できた
- ・どう対応すればよいかが理解できた
- ・伝わらないもどかしさを実感できた

大人ワークショップより

子どもの人権を理解する。暴力に対する解決策は一つではないこと、解決する方法、問題解決能力があることに気づいた

ほっとけん

- ・レジや乗り物の中では“待つ”ようにしよう
- ・いっぱい昔話を聞こう、教えてもらおう
- ・「ふれあいいきいきサロン」をはじめ、地域の活動に工夫・配慮していこう
- ・これまで以上に優しい気持ちと声かけで接客していこう
- * 振り返りシートの活用（9 ページ）
- ・近所の高齢者施設を訪問しよう

- ・認知症サポーターをもっと養成しよう
- ・継続して学ぼう
- ・気になるお年寄りへ声かけをしていこう
- ・近所の高齢者施設を訪問しよう

- ・歩道に駐輪しないようにしよう ・歩道の自転車を片付けよう
- ・みかけたら声をかけてみよう
- ・まち点検を行い、マップを作成、不便なところは改善要望を提出しよう
- ・災害時要援護者として避難支援が必要だ
- ・さまざまなコミュニティ行事や活動に参加してもらおう。また、参加できる工夫をしていこう
- ・地区社協の活動拠点に車いすを置こう
- ・アルミ缶を集めて車いすを買い、寄贈しよう
- * 振り返りシートの活用（9 ページ）

- ・歩道に駐輪しないようにしよう
- ・歩道の自転車を片付けよう
- ・道に迷っておられるようだったら、声をかけよう
- ・災害時要援護者として避難支援が必要だ
- ・さまざまなコミュニティ行事や活動に参加してもらおう。また、参加できる工夫をしていこう
- * 振り返りシートの活用（9 ページ）

- ・書いて伝えよう
- ・わからないときはわかったふりをしないで、聞き返し、確認しよう
- * 振り返りシートの活用（9 ページ）

- ・地域で声かけをしていこう
- ・地域行事へ参加してもらおう
- * 振り返りシートの活用（9 ページ）
- ・伝え方を工夫すればコミュニケーションがとれるんだ！

- ・課題を抱えている子どものサインや心理を理解できるようになる
- ・子どもの話をよく聞き、子どもと一緒に何ができるか一緒に考えるようにしよう
- ・暴力のない、誰もが生活しやすい地域社会を作ることにも貢献しよう

やさしさ発見プログラム事業実施例

(例1) 「住みよいまち〇〇」・・・(まち点検)【小学校4年生 PTC 活動】

ねらい：さまざまな人の視点に立って自分たちの生活を見直す。

内 容：①振り返る：3年生までの学習を振り返る。

②体験する：車いすで生活している人から生活の様子を聞く。

車いすの正しい使い方を学習する。

児童2人組で車いす体験（乗る・押す）をする。

保護者と2人組みで車いす体験をする。

(児童と保護者が同じ話を聞き、同じ体験をすることで、家庭、子ども、学校で意識を共有できる)

③調べる：学校やまちのバリアフリーを調べ、発表する。

・まちのバリアや、バリアフリーの状況

・保護者の協力を得て実施

④広げる：自分にできることを考える。

車いす体験



(例2) 地域貢献活動【中学3年生】

ねらい：1年生：地域で学ぶ・・・地域の職業調べ

2年生：地域で体験する・・・職場体験

3年生：地域に貢献する・・・お世話になった地域の方への貢献活動

(地域と連携した学習を行うことで、「自分は役に立つ存在なんだ」という自己肯定感を育てる。

生きる意欲、学習意欲の向上につながっている。)

内 容：「手話を習い隊」「点字を習い隊」他

耳の聞こえない人やボランティア活動で支援している人たちと交流し、手話や要約筆記について学んだり、携帯用ホワイトボードを作成したり、料理を一緒に作って食べたりする。

(一緒に過ごす時間を多くすることで、より理解が深まる)

点字体験



手話体験



(例3) 車いすユーザー理解・視覚障害者理解【地区・学区社協】

ねらい：車いすユーザーや視覚障害者の話を聴いたり、車いす体験やアイマスク体験をしたりすることによって、障害がある人の気持ちを知り、今後のボランティア活動に役立てる。

内容1：①車いすユーザーの話を聴く。 ②車いすの操作方法を学ぶ。 ③車いす体験をする。

内容2：①手引きの仕方を学ぶ。 ②アイマスク体験をする。 ③視覚障害者の話を聴く。

車いすユーザーの話を聴く



車いす体験をする



手引きの仕方を学ぶ



アイマスク体験をする



車いすの貸出しをしている地区・学区社協では是非、実施してみましょう。

体験していると、いざというとき、役に立ちますよ。

(例4) 視覚障害者理解【小学校3年生】

ねらい：視覚障害者の話を聴いたりアイマスク体験をしたりすることを通して、困っている人の身になって手助けの方法を考えようとする気持ちを育てる。

内容：①視覚障害者の話を聴く。

・生活の様子 ・困っていること ・工夫していること など

②アイマスク体験をする。

・手触りや匂いで果物の名前を当てる ・音の出るボールを投げたりとったりする

③みんなが安心して生活するためにはどうすればよいか考える。

④学んだことやお礼の気持ちを伝える手紙を書く。

視覚障害者の話を聴く



果物の名前を当てる



音の出るボールで遊ぶ



(例5) 高齢者理解【企業・公共施設】

ねらい：高齢者や障害者の状態を疑似体験することで不自由さに気づき、来客者にとって使いやすい施設への改善や接客の改善を行う。

内容：①高齢者施設の職員や障害当事者の話を聴く。

②高齢者疑似体験や車いす体験、アイマスク体験を行う。

③体験をふりかえり、施設や接客の改善ポイントについて考え、話し合う。

高齢者疑似体験セットを装着して書類に記入する



車いすで施設内を巡る



アイマスクをつけて施設内を歩く



(例6) 知的障害者（児）理解

ねらい：わかりやすく、たのしく参加できる疑似体験を通して、知的障害者（児）に対する理解を深める。

内容：①福祉活動体験学習サポーター〔知的障害者（児）の保護者〕の指導により、

「伝えることの難しさ」を体験する。

②伝え方を工夫することで、コミュニケーションがとりやすくなることを知る。

③知的障害者（児）やその保護者の思いを理解し、自分たちにできることを考える。

体験① 伝えることの難しさに気づこう



体験② 言葉を絵にしてみよう

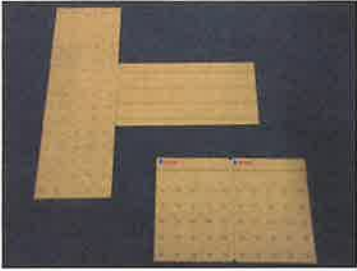


ハンドブック
(テキスト)



福祉器材の貸出しを行っています

車いす、アイマスク、点字板、高齢者疑似体験セットなど、福祉教育ややさしさ発見プログラム事業でご利用いただける器材をそろえております。

①車いす  自走式、介助式、子ども用があります	②点字ブロック  点状のもの、線状のものと駅のプラットフォーム用(6枚)があります	③視覚障害体験セット 
④高齢者疑似体験セット   まなび体 うらしま太郎 ミニセット まなび体には M・Lのサイズ があります 装着が簡単です M・Lのサイズ があります	⑤白杖  ストレートと折りたたみ式があります	⑥アイマスク  ⑦点字板 

- ◆貸出しは無料です。
- ◆貸出期間は、概ね学習実施日の前日から翌日までです。(延長を希望される場合はご相談ください)
- ◆必ず指導者のもとでご使用ください。
使い方を誤ると、事故が起こったり、正しい学習につながらなかったりする場合があります。

上記の他に、福祉に関するビデオや書籍も貸し出しています。

ご希望の方は、広島市社会福祉協議会ボランティア情報センターまでお気軽にご相談ください。なお、数に限りがありますので、使用希望の方は、お早めにご相談ください。

また、区社協でも保有し、貸し出しているものもあります。

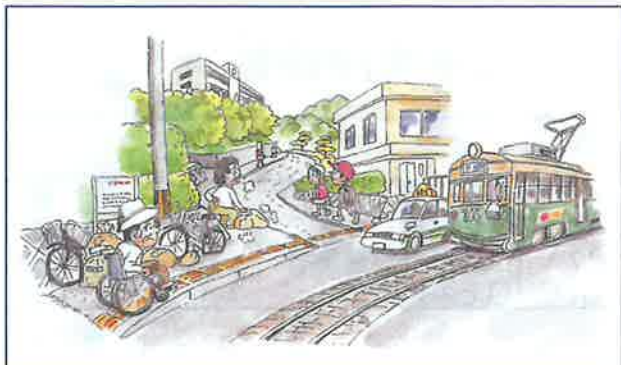
振り返りシート (4種類)

学習教材としてお使いください。データは広島市社会福祉協議会ホームページよりダウンロードできます。

振り返りシート① 通学路編

あなたの“やさしさ発見!”

～この絵から感じることを言葉にしてみてください～



この絵を見て、
気づいたことは何ですか？



これは、“ほっとけん!”
あなたなら、どうしますか？



発行広島市社会福祉協議会

振り返りシート② バス停編

あなたの“やさしさ発見!”

～この絵から感じることを言葉にしてみてください～



この絵を見て、
気づいたことは何ですか？



これは、“ほっとけん!”
あなたなら、どうしますか？



発行広島市社会福祉協議会

振り返りシート③ スーパーマーケット編

あなたの“やさしさ発見!”

～この絵から感じることを言葉にしてみてください～



この絵を見て、
気づいたことは何ですか？



これは、“ほっとけん!”
あなたなら、どうしますか？



発行広島市社会福祉協議会

振り返りシート④ 病院編

あなたの“やさしさ発見!”

～この絵から感じることを言葉にしてみてください～



この絵を見て、
気づいたことは何ですか？



これは、“ほっとけん!”
あなたなら、どうしますか？



発行広島市社会福祉協議会

社会福祉法人
広島市社会福祉協議会 会長 様

团体名: _____

所属長名: _____ 印
(公印または所属長の私印を押印ください)

令和 年度「やさしさ発見プログラム事業」申請書

プログラム名			
対象者・参加者数	☐ 小学生 年生(名) ☐ 中学生 年生(名) ☐ 高校生 年生(名) ☐ 教職員 (名)	☐ 保護者 (名) ☐ 地域住民 (名) ☐ 地区社協関係者 (名) ☐ その他()(名)	
実施日時	令和 年 月 日() 時 分 ～ 時 分 (休憩 分)		
場 所			
目 的			
事前学習 (実施される場合に記入)	(ビデオ・DVDを活用した学習等)		
体験学習 体験！ 講師名 【 】 学習協力者(団体名) 【 】	(体験学習の内容を具体的に記入)		
振り返り学習 発見！！	(体験学習から得てほしい気づきを記入)		
まとめ学習 ほっとけん!!!	(気づきを受け、今後に生かしていくことを想定して記入)		
必要経費	☐ 講師謝金 ☐ 学習協力者交通費 ☐ 車椅子運搬費		

担当者氏名		住所	〒
e-mail		電話	() -

社会福祉法人
広島市社会福祉協議会 会長 様

団体名: _____

所属長名: _____ 印
(公印または所属長の私印を押印ください)

令和 年度「やさしさ発見プログラム事業」報告書

プログラム名		
対象者・参加者数	☐ 小学生 年生() 名 ☐ 中学生 年生() 名 ☐ 高校生 年生() 名 ☐ 教職員 () 名	☐ 保護者 () 名 ☐ 地域住民 () 名 ☐ 地区社協関係者 () 名 ☐ その他() () 名
実施日時	令和 年 月 日() 時 分 ~ 時 分 (休憩 分)	
場 所		
実施内容	成 果	課 題
体験学習 体験！ 講師名 【 】 学習協力者(団体名) 【 】		
振り返り学習 発見！！ *参加者の気づきを記入		
まとめ学習 ほっとけん!!! *どのような「ほっとけん」 気持ちをもったかを記入 *今後にかかしていくこと を記入		

※ 実施後、原則2週間以内に提出してください

記入例

様式 2

実施団体 ⇒ 区社協 ⇒ 市社協
令和〇〇年〇〇月〇〇日

社会福祉法人
広島市社会福祉協議会 会長 様

団体名: 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

所属長名: 〇〇 〇〇 印
(公印または所属長の私印を押印ください)

令和 〇 年度「やさしさ発見プログラム事業」申請書

プログラム名	視覚障がい者と盲導犬の関わりを通して、よりよき暮らしを考える		
対象者・参加者数	☒ 小学生 〇 年生(〇〇 名) ☐ 中学生 年生(名) ☐ 高校生 年生(名) ☒ 教職員 (〇 名)	☒ 保護者 (〇〇 名) ☐ 地域住民 (名) ☐ 地区社協関係者 (名) ☐ その他() (名)	
実施日時	令和〇〇年〇〇月〇〇日(〇) 〇〇時 〇〇分 ~ 〇〇時 〇〇分 (休憩〇分)		
場 所	〇〇小学校体育館		
目 的	実際に働いている盲導犬のようすを観たり、障がい者の話を聴いたりすることを通して、共によりよい暮らしをつくっていききたいという気持ちを育てる		
事前学習 (実施される場合に記入)	(ビデオ・DVDを活用した学習等) 盲導犬に関する DVD の視聴		
体験学習 体験！ 講師名 【 〇〇 〇〇さん 】 学習協力者(団体名) 【 】	(体験学習の内容を具体的に記入) 1 盲導犬ユーザーによる講演 2 休憩 (〇分) 3 質疑応答 4 盲導犬とのふれあい 5 まとめ		
振り返り学習 発見！！	(体験学習から得てほしい気づきを記入) ・人と盲導犬との関係に気づく。 ・盲導犬の働きに気づく。 ・道や乗り物で、どのようなことに困っているかに気づく。		
まとめ学習 ほっとけん!!!	(気づきを受け、今後に生かしていくことを想定して記入) ・障がいのある人だけでなく、家族や友だちも含めて、人はさまざまななかかわりの中で暮らしていることを知り、困っている人がいれば、言葉をかけたり、手助けをしたりする。 ・講師の先生にお礼の手紙を書く。		
必要経費	☒ 講師謝金 ☐ 学習協力者交通費 ☐ 車椅子運搬費		

担当者氏名	〇〇 〇〇	住所	〒〇〇〇-〇〇〇〇 広島市〇〇区〇〇町〇丁目〇〇-〇〇
e-mail		電話	(〇〇〇) 〇〇〇 - 〇〇〇〇

記入例

社会福祉法人
広島市社会福祉協議会 会長 様

様式 5
実施団体 ⇒ 区社協 ⇒ 市社協
令和〇〇年〇〇月〇〇日

団体名: 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

所属長名: 〇〇 〇〇 印
(公印または所属長の私印を押印ください)

令和 〇 年度「やさしさ発見プログラム事業」報告書

プログラム名	視覚障がい者と盲導犬の関わりを通して、よりよき暮らしを考える	
対象者・参加者数	☒ 小学生 〇 年生(〇〇 名) ☐ 中学生 年生(名) ☐ 高校生 年生(名) ☒ 教職員 (〇 名)	☒ 保護者 (〇〇 名) ☐ 地域住民 (名) ☐ 地区社協関係者 (名) ☐ その他() (名)
実施日時	令和〇〇年〇〇月〇〇日(〇) 〇〇時 〇〇分 ~ 〇〇時 〇〇分 (休憩〇分)	
場 所	〇〇小学校体育館	
実施内容	成 果	課 題
体験学習 体験！ 講師名 【 〇〇 〇〇さん 】 学習協力者(団体名) 【 】	・視覚障がいがある人の生活していく上で の大変さがわかった。 ・盲導犬が視覚障がいがある人の歩行の支 えだけでなく、心の支えであることがわか った。	・実際に盲導犬が活躍する場面をもうけると よかった。(事前打合せが大切)
振り返り学習 発見！！ *参加者の気づきを記入	・視覚障がいがあっても、いろいろなことが できるので、びっくりした。 ・段差は必要なことがわかった。 ・盲導犬はハーネスを着けたときから仕事中、 はずすとペットになる。(やさしく無視する) ・盲導犬は、家族の一員だと思った。	・講演の中で、バリアフリーやユニバーサル デザインの話があったので、子どもたちに自 分の身のまわりを見つめさせ、誰もが暮らし やすい世の中について考えさせたい。
まとめ学習 ほっとけん!!! *どのような「ほっとけん」 気持ちをもちたかを記入 *今後に生かしていくこと を記入	・視覚障がいがある人が困っていたら声をか けようと思う。 ・盲導犬の募金箱に貯金したい。	・自分の日常生活を振り返り、誰に対しても 思いやりの気持ちを持ってほしい。 ・世の中には、いろんな人がいて、みんな 助け合って生活している。自分にできること を考えさせたい。

※ 実施後、原則 2 週間以内に提出してください

【お気軽に相談ください】

社会福祉法人 広島市社会福祉協議会

ボランティア情報センター

〒732-0822 広島市南区松原町5-1
広島市総合福祉センター(BIG FRONT ひろしま6階)
TEL (082) 264-6408 FAX (082) 264-6416
E-mail voinfo@shakyohiroshima-city.or.jp
URL: <https://shakyo-hiroshima.jp/>

広島市中区社会福祉協議会（ボランティアセンター）

〒730-0051
広島市中区大手町 4-1-1 大手町平和ビル内（中区地域福祉センター 5F）
TEL (082) 249-3114 FAX (082) 242-1956
E-mail naka@shakyohiroshima-city.or.jp

広島市東区社会福祉協議会（ボランティアセンター）

〒732-8510
広島市東区東蟹屋町 9-34（東区総合福祉センター 4F）
TEL (082) 263-8443 FAX (082) 264-9254
E-mail higashi@shakyohiroshima-city.or.jp

広島市南区社会福祉協議会（ボランティアセンター）

〒734-8523
広島市南区皆実町 1-4-46（南区地域福祉センター 3F）
TEL (082) 251-0525 FAX (082) 256-0990
E-mail minami@shakyohiroshima-city.or.jp

広島市西区社会福祉協議会（ボランティアセンター）

〒733-8535
広島市西区福島町 2-24-1（西区地域福祉センター 4F）
TEL (082) 294-0104 FAX (082) 291-7096
E-mail nishi@shakyohiroshima-city.or.jp

広島市安佐南区社会福祉協議会（ボランティアセンター）

〒731-0194
広島市安佐南区中須 1-38-13（安佐南区総合福祉センター 5F）
TEL (082) 831-5011 FAX (082) 831-5013
E-mail asami@shakyohiroshima-city.or.jp

広島市安佐北区社会福祉協議会（ボランティアセンター）

〒731-0221
広島市安佐北区可部 3-19-22（安佐北区総合福祉センター 4F）
TEL (082) 814-0811 FAX (082) 814-1895
E-mail kita@shakyohiroshima-city.or.jp

広島市安芸区社会福祉協議会（ボランティアセンター）

〒736-8555
広島市安芸区船越南 3-2-16（安芸区総合福祉センター 3F）
TEL (082) 821-2501 FAX (082) 821-2504
E-mail aki@shakyohiroshima-city.or.jp

広島市佐伯区社会福祉協議会（ボランティアセンター）

〒731-5135
広島市佐伯区海老園 1-4-5（佐伯区地域福祉センター 5F）
TEL (082) 921-3113 FAX (082) 924-2349
E-mail saeki@shakyohiroshima-city.or.jp

発行

社会福祉法人 広島市社会福祉協議会